

令和 5 年 4 月 28 日現在

機関番号：34504

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2017～2022

課題番号：17K13581

研究課題名(和文) 家族・親族関係からみた沖縄系移民の成立に関する歴史地理学研究

研究課題名(英文) A Historical Geographical Study on the Establishment of Okinawan Immigrants from the Perspective of Family and Kinship Relationships

研究代表者

花木 宏直 (HANAKI, Hironao)

関西学院大学・文学部・准教授

研究者番号：80712041

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は沖縄県出身移民を事例に、近代以降に移民送出に至った歴史的経緯と、移民を介した移住先と出身地との関わり、移民送出に伴う出身地の変容を検討した。その結果、沖縄県外出身者による移民斡旋や、土地整理事業に伴う社会関係の再編が移民送出の要因となったことが明らかになった。また、家産の相続や祖先祭祀の実施をはじめ、移住先と出身地が一体となった家族・親族関係が維持されていたことが明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の意義は、まず、近代の沖縄県出身移民を対象として、移住に至った要因から移住先での居住地や職業の変化、出身地との関わりまで、彼らの動向の全体像を把握したことにある。次に、移住に至った要因について、既存研究で注目されてきた沖縄県出身者にとどまらず、寄留商人をはじめ沖縄県外出身者の役割に注目したことにある。続いて、移住先と出身地との関わりについて、移住後も出身地との関係を維持し、越境的な社会関係が構築されていた様子をみいだしたことにある。本研究を通じて、移民を出身地の社会関係の越境的拡大の中に捉え直すという、新たな知見を提供した。

研究成果の概要(英文)：This study examines the historical circumstances that led to emigration from the main island of Okinawa in the modern era, the relationship between the place of emigration and the place of origin through emigration, and the transformation of the place of origin as a result of emigration. The results revealed that immigration was mediated by brokers from outside Okinawa Prefecture and that the reorganization of social relations following the land reform was a factor in the outward migration of immigrants. In addition, it became clear that family and kinship relationships that united the place of emigration with the place of origin were maintained, including inheritance of family property and ancestral rituals.

研究分野：人文地理学

キーワード：移民 沖縄 寄留商人 斡旋 土地整理事業 門中 越境的拡大

## 1. 研究開始当初の背景

現代世界では、海外を含む活発な人口移動がみられるが、海外を含む人口移動は、現代のみに発生した現象ではない。日本では、近代よりハワイや北米、南米、東南アジア、オセアニアをはじめ、海外を含む人口移動の活発化がみられた。1990年以降は日本からの出移民が100周年を迎え、近代日本からの出移民に関する多くの研究が蓄積されてきた。これらの研究では、出移民の要因として、生産基盤の脆弱性や経済的困窮、天災を背景に、零細世帯や非後継者中心に送られるという、出身地での生計維持活動の困難に伴いやむを得ず移民するというステレオタイプな枠組みを乗り越えるべく、移民の当事者や斡旋した者への聞き取りや資料調査を通じて、多面的な出移民要因論の実証研究が取り組まれてきた。

そこで、申請者は、移民を検討する枠組みを、出身地の衰退の結果としての移民ではなく、出身地を維持発展させる手段としての移民というみかたで捉えられるのではないかと、よりミクロにみれば、移民は生計維持活動の困難等による家族や親族関係からの離脱ではなく、不在成員を含むという家族や親族関係のあり方の一つとして捉えられないかと、と考えるに至った。

## 2. 研究の目的

本研究では、沖縄県出身移民を事例として、移民送出に至った歴史的経緯と、移民を介した移住先と送出地域との関わり、移民送出に伴う送出地域や送出世帯に注目し、送出地域を維持発展させる手段としての移民、さらには移民は不在成員を含む家族や親族関係のあり方の一つという枠組みを意識し、近代日本の出移民および海外移民送出地域の特性を検討することを目的とした。事例として、明治30年代半ばより移民送出がはじまり、後発ながら近代日本有数の海外移民送出地域へと展開した、沖縄県出身移民を対象とした。

## 3. 研究の方法

本研究では、八重瀬町史移民出稼ぎ編専門部会や、沖縄移民研究センターをはじめ沖縄県内の移民研究関係者との交流を活用し、移民送出のキーパーソンに関する沖縄県内外での調査、とくに沖縄県外出身者に関する歴史的公文書や古文書調査を通じた沖縄県出身者の実態の解明、

移民と家族・親族に関わる民俗資料について、沖縄本島での全貌の解明、民俗資料調査を活用し、八重瀬町具志堅門中の海外の成員を含む聞き取りを中心とした、送出地域・送出世帯における移民の位置づけに関する調査、の3つの課題に取り組むことを企図した。

## 4. 研究成果

### (1) 近代沖縄における移民・出稼ぎ送出の仕組みの全体像の解明

本研究の成果として、主に3点を挙げられる。1点目は、近代沖縄において海外移民の斡旋に従事した主体に注目し、外交史料館所蔵の歴史的公文書などを活用して、外地への移民や国内出稼ぎの斡旋との関わりを踏まえながら、移民・出稼ぎ送出の仕組みの全体像をおおよそ明らかにしたことである。

1900年代における沖縄県からの出移民は、移民会社の斡旋によるハワイ移民が大半を占めており、多数の業務代理人が移民斡旋に従事していた。業務代理人には沖縄県外出身の寄留商人や、沖縄県出身の自由民権運動の関係者や教員経験者などがみられた。

1910年代以降はハワイ移民の困難化と移民会社の統廃合により、呼寄移民と南米移民が増加した。そして、沖縄県の移民周旋業取締規則の制定により斡旋業者が成立し、1人の海外興業の業務代理人と多数の斡旋業者という構成に変化した。業務代理人は沖縄県外出身でもと移民会社の社員や他地域の業務代理人、斡旋業者は沖縄県出身の地方官吏や東京市での修学経験者、海外からの帰郷者などが多かった。その後は南洋移民や紡績女工、人夫、炭鉱夫などの国内出稼ぎの斡旋も増加し、沖縄県外出身の寄留商人や沖縄県出身の商業者、教員経験者なども従事した。業務代理人と斡旋業者は各地に散在し、募集人や自治体も含め相互に連携して斡旋を行った。

このように、近代沖縄における移民・出稼ぎ送出は、業務代理人と斡旋業者の属性や、海外や外地への移民と国内出稼ぎの斡旋内容の相違に関わらず、沖縄県外出身の寄留商人や、沖縄県出身の海外・外地・本土への在住や移民関係業務の経験者が従事した。沖縄県も斡旋業者に対し、政策的な支援を行った。彼らは移民・出稼ぎをめぐる時代状況に合わせ、ハワイ移民から呼寄移民、南米移民、南洋移民、国内出稼ぎへと斡旋内容を変化させながら、近代を通じて存立し続けたことが明らかになった。

本研究を通じて、とくに近代後期において海外興業と自治体の連携にとどまらず、1人の業務代理人と多数の斡旋業者という形態がみられたように、地域の状況に応じたさまざまな移民・出稼ぎ送出の仕組みが形成されたと指摘できた。また、沖縄県における移民・出稼ぎ送出の仕組みの特徴として、1900年代より出移民が急増する中で、日本政府や自治体が統率する以前に民間の斡旋業者による移民斡旋が盛んになったため、1940年まで海外協会や海外移住組合による移民斡旋がないという、いわば民間主導型といえる新たな類型をみいだすことができた。

## (2) 沖縄出身の戦後移民を事例とした移住前後の居住地移動と職業変化の全体像の解明

本研究の成果の2点目は、戦後移民の事例ではあるが、ブラジル・サンパウロ市周辺での八重瀬町出身者への聞き取り調査を通じて、沖縄県出身者の移住前後の居住地移動と職業変化の全体像を明らかにしたことである。聞き取り調査は戦後移民の中でも、公募移住の1つであるブラジル移民青年隊を主な対象とした。

ブラジル移民青年隊とは第二次世界大戦後の引揚や人口急増を背景とし、農村青年対策が求められる中で、沖縄青年会連合会や沖縄産業開発青年隊の活動の一環として行われた。公募移住という形態により、先発移民との血縁関係がなく呼寄移民が難しい者に対し移民を可能とする側面もみられた。移住者は4年契約で農業に従事した後、農業での自立を目指した。

ブラジル移民青年隊員の当事者の動向に注目すると、彼らには農林高校の卒業生や沖縄産業開発青年隊の修了者が多かったが、それに該当しない者も少なからずいた。彼らの中にはサイパン生まれの引揚者も含まれていた。参加の動機は必ずしも農業開拓を目的としていなかった。入植先となる身許引受人には戦前移民で内陸部の大規模農家だけでなく都市近郊の中小規模農家もあり、家族や親戚を身元引受人とする者もみうけられた。身元引受人の下ではおおそ農業手伝に従事したが、契約期間は1~2年と短く、商業や工業手伝に従事する事例もあった。独立後は農業で自立する者は少なく、同郷者の紐帯を活用しつつ内陸部から都市へ転住してフェイラという露天商やさまざまな商業に従事し、1980年代以降は日本本土へデカセギも行った。

これらの事例から、ブラジル移民青年隊の実態として、設立目的とは異なり、近親者の呼寄によるブラジルないし南米への一般的な移住過程と相違のない様子が明らかになった。このような特徴が現れた要因として、受入態勢の不備や農業での自立の難しさ、ハイパーインフレの発生をはじめ、さまざまな背景が関わっていた。このように、ブラジル移民青年隊を通じて、移住の経緯から移住先へ定着するまでの過程が明らかになった。

なお、上記の成果について、当初の計画では戦前の移民を調査対象とする予定であった。しかし、現在では戦前の移民、とりわけ1世の方はほとんど存命でなく、調査が難航した。一方、八重瀬町教育委員会の協力を得て、戦後移民1世への聞き取りを実施することができ、その中にブラジル移民青年隊員が多くみられた。本研究を通じて、戦後移民の事例ではあるが、1世の生活史の全体像を総観することができた。

## (3) 近代沖縄における土地整理事業に伴う社会関係の再編と移民送出の実態の解明

本研究の成果の3点目は、羽地村仲尾次地区(現・名護市)を事例として、近代沖縄における土地整理事業に伴う社会関係の再編と移民送出の実態を明らかにしたことである。

まず、近代沖縄では出移民の増加に伴い、多数の後継者や本家がブラジルをはじめ海外を含む各地に移住していた。次に、後継者は移住後に蓄財して帰郷し、出身地区の家産を相続する様子がみられた。一方、後継者の中には移住先にとどまりながら、子どもを教育目的で帰郷や残留させ、将来の帰郷に備えるというより移住先での世代交代に備える事例がみられた。さらに、本家が移住した場合については、出身地区の血縁関係者が家産を継承する場合もあった。それだけでなく、本家の移住とともに位牌を移動し、出身地区より遠隔的に行事を実施する事例がみとめられた。

既往研究をかえりみると、移民の当事者をめぐり、中小農家や分家が中心であったとみるか、「ウェーキ」と呼ばれる資産家や後継者、本家も多かったとみるかという見解の相違がみられた。この点について、本研究を通じて、階層分化が進んでいないため本家が必ずしも資産家ではない様子や、中小農家や分家だけでなく没落したウェーキを含む本家の後継者も多数移住した実態が明らかになった。また、既往研究では、土地整理事業以降における家産の長子相続や父系出自の重視と、後継者や本家の移住の多さとのずれが指摘されていた。この点については、家産の長子相続や父系出自を重視する観念の浸透に先んじて出移民が増加したため、後継者や本家の移住が多かったことが判明した。さらに、出身地区での家産の相続にこだわるのではなく、後継者や本家が出身地区の土地を処分し、移住先へ位牌を移動させながら血縁関係を維持することで、越境的に門中の組織化が進んだ様子をみいだした。

つまり、近代沖縄からの出移民の一端をみると、後継者や本家が家産を相続して出身地区にとどまり、非後継者や分家が家産を相続せずに移住する様子を顕著にみいだすことはできなかった。むしろ、出身地区への後継者や本家の居住や家産の配置にとどまらない形で血縁関係が作られていくという、まさに村落の越境的拡大といえる状況が発生していたと結論づけることができた。

なお、上記の成果については、当初の計画では八重瀬町の具志堅門中を調査対象とする予定であった。しかし、調査を進める中で、沖縄移民研究センターにて「在伯日本移民歴史調査」という1930~1940年代頃のブラジル在住者の詳細な家族構成が判明する資料を得られ、そこに羽地村仲尾次地区(現・名護市)出身者が多数登場した。そこで、調査対象を仲尾次地区へ切り替え、「在伯日本移民歴史調査」と仲尾次地区在住のブラジル居住経験者の家族からの聞き取りなどを通じて、成果をまとめることができた。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計10件（うち査読付論文 9件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 8件）

1. 著者名 花木宏直	4. 巻 74-2
2. 論文標題 近代沖縄における海外移民送出の実態に関する再検討 羽地村仲尾次地区を事例に	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 人文地理	6. 最初と最後の頁 133-154
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4200/jjhg.74.02_133	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 花木宏直	4. 巻 21
2. 論文標題 近代沖縄における移民・出稼ぎ送出の仕組みの特性 移民会社業務代理人・斡旋業者・募集人に注目して	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 沖縄地理	6. 最初と最後の頁 17-32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.34527/okinawachiri.21.0_17	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 花木宏直	4. 巻 63-4
2. 論文標題 移民送出の仕組み・仲介者をめぐる論点	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 歴史地理学	6. 最初と最後の頁 65-67
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 花木宏直	4. 巻 17
2. 論文標題 第二次世界大戦後の沖縄県におけるブラジル移民青年隊の移住過程	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 移民研究	6. 最初と最後の頁 1-22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24564/0002011602	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 花木宏直	4. 巻 40
2. 論文標題 20世紀前半のカナダ平原諸州における沖縄県出身者の移住過程	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 カナダ研究年報	6. 最初と最後の頁 1-17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 花木宏直	4. 巻 16
2. 論文標題 第二次世界大戦前のサンパウロ州ジュキア線における沖縄系移民の集住地域形成 1938～40年調査「在伯日本移民歴史調査表」を活用して	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 移民研究	6. 最初と最後の頁 1-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24564/0002012199	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 花木宏直	4. 巻 18
2. 論文標題 近代沖縄における海外移民送出と熊本県鏡町出身者との関係	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 沖縄地理	6. 最初と最後の頁 35-46
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 金城宏幸, 花木宏直	4. 巻 15
2. 論文標題 沖縄系アルゼンチン人とバスク系アルゼンチン人のホームランドに対する意識の比較検討	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 移民研究	6. 最初と最後の頁 71-92
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24564/0002012205	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 金城宏幸, 町田宗博, 宮内久光, 酒井アルベルト清, 花木宏直	4. 巻 15
2. 論文標題 「2016年度世界のウチナーンチュ意識調査」および「世界のバスク人意識調査2017」の集計結果	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 移民研究	6. 最初と最後の頁 93-114
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24564/0002012206	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 花木宏直	4. 巻 13
2. 論文標題 移民資料としてみた府県統計書の特性とその活用	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 移民研究	6. 最初と最後の頁 1-22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24564/0002010077	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

[学会発表] 計3件(うち招待講演 0件/うち国際学会 0件)

1. 発表者名 花木宏直
2. 発表標題 移民送出国の仕組み・仲介者をめぐる論点
3. 学会等名 歴史地理学会第64回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 花木宏直
2. 発表標題 1900～1940年代の沖縄県における海外移民の送出国と送出国帯の動向 羽地村仲尾次地区出身のブラジル移民を中心に
3. 学会等名 2020年人文地理学会大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 花木宏直
2. 発表標題 沖縄県からのカナダ移民送出しと鹿児島県出身者の役割
3. 学会等名 日本カナダ学会第44回年次研究大会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------